

【一】次の文章を読んで、設問に答えよ。

ちよつと考えると、自然科学というのは、きわめて①ⅠⅠ的な経験科学であるから、研究者は、①ⅡⅡが混じらないようによく注意して、あらゆる偏見や先入観を取り去って自然に立ち向かうべきであり、①ⅢⅢ的な観測と実験の結果に基づいて理論とか法則とかを求めていくのが、正しい科学の方法なのであると思われるかもしれない。ところが、①ⅣⅣ問題として、そのようなことは不可能であるばかりか、実はそれでは何の理論も法則も生まれてこないのである。そのことは、科学の歴史を顧みても明らかであり、また、あの優れた実験科学者であるとともに電磁気学などの重要な法則を見出した一九世紀の科学者ファラデー自身が、そのように述べているところでもあるのである。

(中略)たとえばガリレイやケプラーが、この宇宙は数学の言葉で書かれた書物であるという強力な先入観にとらえられていなかったとしたら、伝統的な宇宙の見方、アリストテレス的スコラ学的な先入観念を乗り越えて、数学的・近代科学的な諸法則を見出すことはできなかったであろう。

昔は、血液は血管のなかを行ったり戻ったりするように考えられていたのに対して、血液は①ⅤⅤ循環するのだということが発見されたことは、生物学上、また生理学上きわめてイカツキテキなことであるが、血液が循環するという考え方は、実験や観察から生まれたのではなくて、「大宇宙」としてのこの宇宙と「小宇宙」としての人間の体との②ⅥⅥ関係、という伝統的な観念によつて生みだされたものなのである。「大宇宙」である諸天体が循環するように、「小宇宙」である人間の体のなかにも循環があるという考え方である。一五世紀後半のレオナルド・ダ・ヴィンチの場合には、自然界において河↓海↓雲↓雨↓③ⅦⅦ↓という水の循環があるように、人間の体においても血液の循環があると考えていた。

一六世紀以後の新しい天文学のもとではさらに、「大宇宙」における生命と熱の源である太陽が占めるのと同じ中心的な位置を、「小宇宙」である人間の体においては④ⅧⅧが占めているのだと考えられた。このような考え方が、あのウィリアム・ハーヴェイ(一五七八―一六五七)を導いて、血液循環説を確立することにウキヨしたのである。

彼の研究成果『動物の心臓ならびに血液の運動に関する解剖学的研究』は、一六二八年、すなわちガリレイの『天文対話』の四年前に発表された。ハーヴェイの研究に際しては、「大宇宙」と「小宇宙」の対応という考えが彼を導いただけでなく、心臓をポンプと類比して考える考え方が有効な働きをしたといわれている。当時は鉱山業の発達に伴って⑤ⅨⅨコウ道の排水が重要な問題となり、また都市における給水の必要も増大しつつあったので、ポンプというものに対する人々の関心が非常に高まってきていた。そういうことが、心臓をポンプと類比的にみるという着想をハーヴェイに得⑥ⅩⅩさせたものと思われる。

ハーヴェイと同じく、イギリスの医師でしかも彼と同じく王室の⑦ⅪⅪオジイを務めたウィリアム・ギルバート(一五四〇―一六〇三)は、一六〇〇年に『磁石について』という著者を出版したが、そのなかで彼は地球がひとつの巨大な磁石であることを提唱するとともに、地球と月との間にも磁石の力が働いているという考えを示した。それは月がいつも地球に対して一定の面を向けているからであった。

⑧ⅫⅫこの考えをケプラーはさらに拡張して、太陽と惑星の間にも磁石の力、あるいはそれに類した力が働いていると考え、潮の満ち引きが起こるのも、月が海水に及ぼすこのような力によると考えた。ニュートンの万有引力の考えは、実はこのような考えがあらかじめ存在したところから得られたのである。その証拠に、ニュートンは、その著『プリンキピア』において、万有引力について論じた際に、

重力「万有引力」は、⑦ⅬⅬである。

と⑧ⅭⅭことわっているのである。

進化論を提唱したダーウィンやウォレスの自然カ淘汰あるいは自然選択という説

も、その着想は、マルサスの『人口論』と、自由競争を正当なものとした一九世紀の社会思想に由来するといわれている。彼らはいずれも、そのような思想がキネをおろしつづつあった時代のイギリスに成人したのである。

陰極線が発見されてその本質の解明が問題になっていた頃、イギリスの多くの学者たちはこれをク粒子であると唱えたのに対して、ドイツの科学者たちの間では波動であるとする意見が強かった。この点について、クラウザーは次のような興味ある解釈を提示している。すなわち、少年のころからクリケットやラグビーをやつてきたイギリス人は、粒子の運動のさまを見る「ドウサツ」力を自然に身につけているのであり、これに対して、陰極線や自然一般を波動的に理解するドイツ人の傾向は、彼らの音楽に対する情熱と同じ根源から出ているのであろう、というのである。

以上のようないくつかの例から見られるように、科学の新しい理論、新しい法則の発見は、⑨。そこで、このような役割を担った概念のことを「概念枠」(conceptual framework)と呼ぶことがある。もともと、そのようにして提出された説がいったん科学上の理論なり法則なりとして認められる頃には、それを作り出す上で必要な役割を担ってきた「概念枠」は姿を消してしまうことが多いので、何が「概念枠」となっていたのかを後から明らかにすることは必ずしも容易ではない。

(渡辺正雄『科学とキリスト教』より。出題のため、一部表記を改めた。)

問一 空欄①に最適な語句の組み合わせを次から選び、記号で答えなさい。

- ア Ⅰ実証 Ⅱ主観 Ⅲ客観 Ⅳ実際
イ Ⅰ客観 Ⅱ主観 Ⅲ実証 Ⅳ実際
ウ Ⅰ実際 Ⅱ主観 Ⅲ実証 Ⅳ客観
エ Ⅰ客観 Ⅱ実証 Ⅲ主観 Ⅳ実際
問二 空欄②に最適な語句を次から選び、記号で答えなさい。
ア 逆転 イ 依存 ウ 対応 エ 影響 オ 競争

問三 空欄③に最適な語を漢字一文字で書きなさい。

問四 空欄④に最適な語を漢字二文字で書きなさい。

問五 傍線部⑤の助動詞の用法を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 可能 イ 自発 ウ 尊敬 エ 受身 オ 使役

問六 傍線部⑥の考えの根拠を述べている部分を本文中から二十五字以内で書き抜きなさい。

問七 空欄⑦に最適な語句を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 磁力とは性質の異なるもの
イ 循環の別名となるもの
ウ 潮の満ち引きと類似的なもの
エ 月の力と緊密な関係にあるもの
オ 磁力に比例して増減するもの

問八 空欄⑧に最適な副詞を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 真剣に
イ タイミングよく
ウ わざわざ
エ 不器用に
オ こつそりと

問九 空欄⑨に最適な文章を次から選び、記号で答えなさい。

- ア ときに思いもかけないところから、偶然の産物としてもたらされてきたものである
イ しばしば科学以外のところから借りてきた概念を枠組みとして、着想されたり、構築されたりしてきたのである
ウ 既存の宗教的な規範に対抗する形で挑戦的に生み出されてきたのである
エ 科学者たちが少年のころから親しんできた、ヨーロッパの伝統的な思想背景をもとに着想されたのである

オ その地域の独特の気候風土に育まれて完成したものである

問十 この文章で筆者が述べていることとして当てはまらないものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

ア ドイツの科学者たちは、球技や音楽の経験ヒントにして、陰極線の性質をさえようとした。

イ ケプラーは月が磁石の力で地球に引き寄せられているという考えから、潮の満ち引きの原理を考えた。

ウ ダーウインの進化論の背景には、自然界においても人間社会と同様の自由競争が行われているという考え方があつた。

エ 生理学者たちは、解剖実験を重ねるうちに、心臓から押し出される血液と戻っていく血液は同じ血管を通らないということに気づいた。

オ 一見、社会現象がきっかけとなつて着想されているように見えても、科学思想の多くは、実験や観察の結果から得られている。

問十一 傍線部ア・カ・ク・ケの読みとイ・ウ・エ・オ・キの漢字を答えなさい。

【二】次の文章を読んで、設問に答えよ。

「大学で教えられる知識は、いったい何の役に立つのか」。多くの人が一度は、こういう疑問を抱いたことがあるだろう。

高校で進路を考えたとき、大学で講義を受けるとき、就職活動をするときなど、社会に出るまでの間に、この問いに立ち止まる機会が何度かある。そして、社会に出てからも、たとえば、大学に通ったことがないのに活躍している人に出会えば、いったい自分は何を大学で身につけたのか、と振り返ってみることになるかもしれない。

① a、大学に残つて研究や教育にア携わつてゐる人ならば、この問いへの答

えを持ち合わせているのかといへば、そうでもない。そうした「大学人」もまた、「大学で研究し、教えている知識は、いったい何の役に立つのか」という問いに戸惑うことがある。

① b、こんな話がある。ノーベル賞を受賞したある学者が、「大学の研究は、社会の役に立つのですか」と聞かれた。その学者は、「すぐに② a ものではあ

りません」と答えたという。この話を聞いて私たちは、どのように考えればよいのだろうか。「すぐに」というのだから、役に立つかどうかは、長い目で見なければならぬ。というような意味だと考えるのが、とりあえずは妥当な受け取り方だろう。しかし、そもそも大学の研究というものは、ノーベル賞受賞者であっても②

b「とは明確にはいえないようなものだ、とも考えられる。あるいはまた、「役に立つ」かどうかとは関係なく、純粋な好奇心に基づいて学問を探究したから

こそ、ノーベル賞を受けるような研究ができたのだ、とも考えることもできる。ただ、どのようにして考えるにしても、ノーベル賞受賞者に対して「役に立つかどうか説明できないような研究ならば続けるべきではない」と言い返す人はいないので

はないか。このエピソードは、② c「と説明できない研究を続けたり、それを学生に教えたりすることが、ときに許容されたり、場合によっては賞賛されたり

することさえある、ということを教えてくれる。

(中略)

ところが近年では、大学を取り囲む状況が変化している。学生も企業も国も、② d「ことを許容する余裕がなくなつてきた。家計が苦しくなり、学生や親

は、高い授業料を払っているのだから、できるだけ資格や就職に結びつくことを教えてほしいと望む。経営が厳しくなつた企業は、できるだけ即戦力になる人材を育ててほしいと望む。厳しい経済状況にある国は、研究資金を補助するのだから、経済や産業が活性化するのに役立つ研究をしてほしいと望む。望むというより、そうあるべきだ、という風潮も高まつてきている。研究にしても教育にしても大学が

② e「場となることへの要求は、より切実になつてきていると言えよう。

(中略)

しかし、新たな問題も生まれている。それは、今の大学改革で採用されているまさにその「役に立つ／役に立たない」という基準に関わるものにほかならない。「役に立つ／役に立たない」という判断は、多くの場合、数年という短期の成果に基づいて行われる。そのため、短い期間に目にみえるかたちで「②f」ことを表せないような研究分野や教育は、だんだん切り捨てられるようになってきた。ゆえに、切り捨てられる分野の研究や教育に取り組んでいる大学人は、現代の大学改革における評価の在り方に危機感を抱くようになっていく。たとえば、基礎研究への予算が削られたときには、科学者が共同声明を発表するなどして、抵抗が試みられた。

しかし、②g ことが重視され、②h ことが切り捨てられる、という流れが、イ抗いがたい説得力を持っていることも否定できない。というのも、長い間、

「③」として大学が守られてきた結果、研究の意義をほとんど考えずに、本人も趣味としか思っていないような研究をする学者も少なくなかったからである。自分の研究の意義を説明する努力も「ホウキ」、自閉して趣味のような研究を続ける研究者や、学内政治ばかりに力をそそいでいる学者を擁護することは難しい。

(中略)

①c、一般的に、何の役に立っているのか分からない、と思われている研究について、研究者自身もその意義が分からないのであれば、誰もがそれを切り捨てることに納得できるだろう。しかし、研究に取り組む本人は、独創性も将来性もあり、意義のある研究をしている、と考えている場合には、社会から「②i」と切り捨てられれば当然、反発が生まれてくる。

①d、一般には役に立たないと思われる研究も、様々な意義付け、たとえば「長期的な視野」、「④無用の用」、「研究の多様性」などの観点からみれば、その意義をみいだせるはずだ。と主張される。すぐに役に立たなくとも、長期的に意義のあることに取り組むのが学問であり、大学で身につけるべき教養ではないか。

そうした主張がなされ、実際、一定の説得力を持っているのである。

①e、「長期的な視野」や「無用の用」といった言葉は、現行の大学改革を批判する武器になる反面、時に「タリナイ」な研究者の言い訳として使われることもある。どの研究が、長期的な視野で評価することができ、どの研究が単なる個人的な趣味にすぎないのか、それを判断する基準をみいだすことは難しい。とすれば、大学において「②j」ことばかりが重視されることに問題があるからといって、必ずしも、「長期的な視野」や「無用の用」といった主張だけで、直ちに意義のあるものだとみなすわけにはいかない、ということになるだろう。

このように「役に立つ」ということに焦点を当て、大学のおかれた状況を考えると、主に、二つの立場が対立していることが分かる。一つ目は、目にみえるかたちで、社会に「役に立つ」ことを大学で研究し、教えることを求める立場である。もう一つは、⑤と考える立場である。

これまでみてきたように、この二つの立場のどちらか一方が正しい、と言い切ることは難しい。ただ、現状では、すぐに役に立つという基準で大学を評価しようとする流れが強くなり、大学改革を支配している。そうしたなか、よほどその流れに確信を持っている人を別にすれば、大学人の大半は、多かれ少なかれ、割り切れない気持ちを抱いていると言っているだろう。「たしかに、大学の研究や教育について評価を行わないのは問題だ。しかし、だからといって短絡的な評価ばかりに従って、すぐに役に立たない研究が切り捨てられることにも、どこか抵抗感がある」と。こうしたどちらともつかない違和感が現在の大学改革の底流で渦巻いていると考えられるのである。

このどちらにも割り切れない違和感は、いったい何に起因するのだろうか。それを捉えるためには、もう少し深い「オジゲン」に立ち入って考えてみなければならない。そうすると、そもそも「役に立つ／役に立たない」という基準が問われる場合、どちらの立場に立ったとしても、答えの出ていない問題が残る、ということがみえて

くる。それは一言でいえば、⑥大学の存在意義に関わる問題である。たとえば大学が、直接的に役に立つことばかりをしていれば、社会にとって有益な場になれるかもしれないが、シンクタンクや専門学校との違いが分からなくなり、「大学」独自の存在意義は薄れる。逆に、長期的な視野でしか評価できないような研究や教育を重視すれば、大学が社会に役立つことは示しにくくなり、大学と社会との関係を取り結ぶための説明がつかなくなる。

このように、「役に立つ／役に立たない」ということをめぐる問題の基底には、そもそも大学という場が、社会にとつてどのような場であるべきなのか、あるいは、大学と社会とはどのような関係にあるべきなのか、といった大学の存在意義をめぐる根本的な問題がある、と考えられよう。したがって、大学の研究や教育をどのように評価していくのか、ということについては、たとえ明確な基準を設けられないにしても、大学独自の存在意義を問い、大学が社会とどのような関係を取り結ぶべきなのか、ということを検討しなければならないと考えられるのである。

（藤本夕衣『古典を失った大学——近代性の危機と教養の行方』より
出題のため、一部表記を改めた。）

問一 空欄①a～①eに最適な語句を次から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ語は二度使わない。

- ア あるいは
- イ では
- ウ したがって
- エ もし
- オ たとえば
- カ しかし

問二 空欄②a～②jには「役に立つ」か「役に立たない」のいずれかの語句が入る。「役に立たない」が入るものを全て選び、記号で答えなさい。

問三 空欄③に最適な語句を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 守備の要
- イ 夢の浮橋
- ウ 万物の根源
- エ 砂上の楼閣
- オ 象牙の塔

問四 傍線部④無用の用の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 必要なものかどうかは、場所や時代に応じて変化すること。
- イ 本来必要でないものを、人々は求めているということ。
- ウ 役に立たないとされているものが、かえって大きな役割を果たしているということ。

エ 長い期間をかければ、何が必要で何が不必要かわかるということ。

オ 役に立たないものに対して、無理やりに重要性を与えること。

問五 空欄⑤に最適な文章を次から選び、記号で答えなさい。

- ア すぐに「役に立つ」とは言えないものであっても、大学では長期的な視野のもとで研究や教育に取り組むべきだ
- イ 個人的な趣味にすぎない研究であっても、大学では長期的な視野で許容するべきだ
- ウ 簡単に意義を説明することができないような研究こそ、むしろ大学に対して求めるべきだ

エ すぐに「役に立つ」ことが、必ずしも最良の結果を残すとは限らない

オ 役に立つかどうか説明できないような研究ならば続けるべきではない

問六 傍線部⑥「大学」の存在意義に関する筆者の説明として、適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大学の存在意義を考えることは、そこでどのような研究や教育が必要とさ

れているのかという問いを考えるために必要である。

イ 大学の存在意義をめぐる根本的な問題は、大学という存在が、社会に対してどのような意義や役割を担っているのかというものである。

ウ 大学が、他の教育機関との違いを明確にするためには、大学独自の存在意義を明確にする必要がある。

エ 社会との関係を抜きにして大学の存在意義を打ち出すことにも、一定の評価が与えられるべきだ。

オ 短期的な評価と、長期的な視野のどちらが重要かという問題を考察するには、大学の存在意義を検討することが必要である。

問七 次の文章を読んで、本文の内容と合致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大学における研究の有益性は、その研究の意義を一般社会に対してどのように説明するかにかかっている。

イ すぐに役に立つことが求められる研究環境では、本来の意味で役に立つ成果を残すことができない。

ウ 厳しい財政状況にある国が、すぐに役に立つ研究が行われることを大学に対して望むのは、ある意味で自然の流れといえる。

エ どのような研究を高く評価するべきなのかについて、国や大学は一般的な基準を設けるべきである。

オ 大学という場所は、役に立つか立たないかを精査することで、その存在意義が問われるべきである。

問八 傍線部ア・イの読み、ウ・エ・オの漢字を答えなさい。

【三】 次の文章を読んで、設問に答えよ。

平成二五年版の「高齢者白書」によれば、総人口は前年度より二八万人減少、六五歳以上の高齢者は一〇四万人増加して三〇七九万人になった。① a。

高齢化現象は今後も① bに続き、団塊の世代(昭和二年から二四年生まれ)がすべて六五歳以上になる二〇二五(平成二七)年には三九五万人になり、ピークは二〇四二(平成五四)年で、三八七八万人になると試算されたという。

だから① cした、と思う方、ただの数じゃないか、これじゃ分かん、と思う方・様々だろうと推測されるが、次の記載はいかがだろうか。

高齢者世帯の平均年間所得は三〇七・二万円、全世帯が五三八・〇万円だから半分強。六〇歳以上の高齢者の経済状況は、「心配ない」(「全く心配ない」と「それほど心配ない」を合わせたもの)と答えたひとが、七一・〇パーセントを占めるという。

おそらく、と団塊の世代よりもやや年少の筆者は、① d息交じりに以下のことを推測する。団塊の世代以降の年代に合って、経済状況が「心配ない」と感じる層の割合は、これからじわじわ減少していくのではないかな。なぜならば、先の平均年間所得の「アウチワケを見ると、約七割の世帯において公的年金・恩給が総所得の八〇パーセント以上を占めているという。所得の八〇パーセント以上が公的年金で、しかも経済状況が「心配ない」という事態は、筆者の年代ではもはやあり得ないこと。① eだ。

しかしまた、日本の経済がここに至ってもいまだ②できているのは、高齢者世帯がきつちりと家計を維持できているから、という推測もなりたつのではないかな。さらに言えば、団塊の世代が後期高齢者になる二〇二五年が様々な統計の一つの③メルクマールとされているが、このとき高齢者世帯の平均所得がどうなっているかは、日本経済の、いや日本社会全体の一試金石となるだろう。

ひと様の④具合の話から始まってしまったが、もう少し続けてみよう。白書には、団塊の世代にターゲットを絞った意識調査の結果も記載されている(六〇〇〇人に調査し、有効回答が三五一七人)。

世帯年収は二四〇～三〇〇万円が最も多く、一七・三パーセント。四八〇万円以上は一八・八パーセントに上るものの、一二〇万円未満が八・三パーセントとなっており、白書では「所得格差が大きい」と指摘している。主な収入源は年金（五三・四パーセント）、給与（三二・六パーセント）、事業・不動産（一〇・二パーセント）となっている。

三割以上の方が給与所得でイセイケイを立てていることになるが、就労状況は、六〇歳時には正社員・職員の割合は四二・六パーセントであったが、六五歳以上となった現在は非正規社員（四六・九パーセント）の割合が最も多くなっている。

働く目的。⑤を得るため（六〇歳時七三・〇、現在五五・四）、「健康維持」（同二二・三、同三一・三）、「生きがい」（同四・四、同二二・五）。数字は

いずれもパーセントだが、生活費以外の目的が増えていることが明らかに分かる。

それにしても団塊の世代の世代にあつてすでに「所得格差が指摘されているが、それは、以降拡大していくだろうことは、先ほど述べた通りである。ただし、筆者たちの世代が六五歳、さらに七〇歳まで、何らかのかたちで仕事を続け、所得を維持できるライフスタイルができあがれば、先の推測は⑥。

（佐藤幹夫『ルポ高齢者ケア——都市の戦略、地方の再生』より

出題のため、一部表記を改めた。）

問一 空欄① a ① e に最適なひらがなを、解答欄に合わせて答えなさい。

問二 空欄②に最適な語句を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 成長を維持
- イ 破局を回避
- ウ 危機に位置
- エ 国内に依存
- オ 独立と自尊
- カ 困難を克服

問三 傍線部③メルクマールの意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 平均値
- イ 分析
- ウ 最高点
- エ 減退局面
- オ 指標

問四 空欄④に最適な語句を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 階
- イ 懐
- ウ 戒
- エ 界
- オ 快

問五 空欄⑤に最適な語句を本文から漢字三文字で書き抜きなさい。

問六 空欄⑥に最適な語句を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 訂正が必要になるかもしれない
- イ より具体化されるのではない
- ウ まったく逆になるだろう
- エ 今後も継続していく
- オ 白紙に戻さざるを得ない

問七 傍線部ア・イの漢字を答えなさい。

【四】次の二つの語句の関係が、他の組み合わせと異なるものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア おっしゃる——申し上げる

イ お帰りになる——おいとまする
 ウ 頂戴する——拝受する
 エ ご覧になる——拝見する
 オ お聞きになる——お聞きする

【五】傍線部の語句の働きが、異なる組み合わせのものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 誰からも愛される——蚊に刺される
 イ 弟に菓子を食べられる——親の苦勞が偲ばれる
 ウ 先生は英語で話される——社長はそろそろ帰られる
 エ 期待に応えられるように頑張る——昨日のカレーはまだ食べられる
 オ 懐かしい日々が思い出される——あのときの言動が悔やまれる

【六】次のA～Cの書き出しで始まる文学作品の題名と作者をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A ある日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになつていらつしやいました。
 B 朝、食堂でスープを一匙、すつと吸つてお母様が、「あ」と幽かな叫び声をお挙げになった。
 C 山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。

題名 ア 『風立ちぬ』

イ 『草枕』

ウ 『蜘蛛の糸』

作者

エ 『山月記』
 オ 『斜陽』
 カ 『みだれ髪』
 キ 『破戒』
 ク 『蟹工船』
 ケ 芥川龍之介
 コ 志賀直哉
 サ 太宰治
 シ 二葉亭四迷
 ス 夏目漱石
 セ 樋口一葉
 ソ 川端康成
 タ 森鷗外

【解答】

【一】

問一 ア 問二 ウ 問三 河 問四 心臓 問五 オ

問六 月がいつも地球に対して一定の面を向けているから

問七 ア 問八 ウ 問九 イ 問十 ア・エ・オ

問十一 ア じゅんかん (イ) 画期的 (ウ) 寄与

(エ) 坑 (オ) 侍医 (カ) とうた (キ) 根

(ク) りゅうし (ケ) とな (コ) 洞察

【二】

問一 ①a イ ①b オ ①c エ ①d ア ①e カ

問二 ②d/②h/②i

問三 オ 問四 ウ 問五 ア 問六 エ 問七 ウ

問八 ア たずさ (イ) あらが (ウ) 放棄

(エ) 怠惰 (オ) 次元

【三】

問一 ①a と(あ)る ①b さらに ①c どう

①d ため ①e だから

問二 イ 問三 オ 問四 イ 問五 生活費

問六 ア 問七 ア 内訳 (イ) 生計

ウ

イ

【四】

(A題名) ウ (A作者) ケ

(B題名) オ (B作者) サ

(C題名) イ (C作者) ス

【五】

(A題名) ウ (A作者) ケ

(B題名) オ (B作者) サ

(C題名) イ (C作者) ス

【六】

(A題名) ウ (A作者) ケ

(B題名) オ (B作者) サ

(C題名) イ (C作者) ス

【解説】

【一】

問一 組み合わせを考える問題では、わかりやすい所から考えていこう。Fは直後の「混じらないように」につながるし、「偏見や先入観を取り去って」とあるのだから「主観」しかあるまい。さらにFは「問題」につながるのだから、「実際」が合う。この時点でアかイにしばらくられる。Hは「経験」に関わる言葉なので「実証」の方が合う。よってアを選ぶ。

問二 直後に詳しく説明する文が続く。「大宇宙」である諸天体が循環するように、「小宇宙」である人間の体のなかにも循環があるという考え方」とある。つまり宇宙を人体に当てはめて考えてみる、ということであるから、ウの「対応」を選ぶ。「対応」には「二つの物事の一方にあるものに対するものが、他方にもあること」という意がある。

問三 空欄直後に「という循環」とあるのだから、元に戻ればいいわけである。降った雨が最初の「河」に戻るということである。

問四 文脈から、大宇宙において太陽が担うような、循環の中心が、人体でいえば何に当たるのか、ということ答える。空欄の直後でハーヴェイの血液循環論について述べられ、次の段落では心臓がポンプの役割となる、というハーヴェイの着想について記されており、そこから血液の循環の中心が「心臓」である、と考えられていたことを読み取る。

問五 「せる・させる」は使役の助動詞で、「他にその事を行わせる」ことを示す。ちなみに他の選択肢はすべて「れる・られる」の用法。「受身・尊敬・可能・自発」すべて覚えておきたい。

問六 「この考え」の内容を示すのではなく、根拠を示す問題。根拠とは「もとなる理由。よりどころ」ということであるから、「なぜそのような考えをもったのか」を答えればよい。前の段落を読むと、ウィリアム・ギルバートが、「地球が巨大な磁石で、月との間にも磁力が働いている」という考え方(「この考え」

の指示内容」を提唱したことが述べられており、さらに読み進めると、傍線部の直前が「くから」で終わっていて、その考え方の理由を表していることがわかる。

問七 まず空欄の前文に「その証拠に」とあるので、空欄の内容がその前の内容と関わっていることをとらえる。また、空欄の直後に「ことわっているのである」とあることに注目する。「ことわる」には「拒む」の意味もあるが、「前もって知らせたり言い訳をする」という意味がある。つまりニュートンの万有引力の考えは、星の間に磁石の力が存在するという考えがよく知られている中で発表されたので、前もってそれとは違うということを知らせておかなければならなかった、ということである。他の答えでは「ことわる」という表現をとることに合わない。

問八 そもそもア「真剣に」とエ「不器用に」は形容動詞であるから除外。そして「ことわっているのである」という表現に繋がるように考えていくと、「普通ならしくていいのに」という意で「わざわざ」を選ぶ。

問九 空欄を含む一文の初めが「以上のようないくつかの例から見られるように」とある。一番わかりやすい例として直前の例を挙げるが、イギリス人がクリケットやラグビーに親しんでいたから陰極線を粒子と考えたのに対し、ドイツ人が音楽に親しんでいたから陰極線を波動と考えた、という内容である。つまり一見すると科学と関係のないような考え方や習慣が科学の発見につながったという内容である。さらに空欄の直後では「このような役割を担った概念のことを「概念枠」と呼ぶ」とあり、空欄が何かの概念について説明されていることも分かる。以上を総合してイを導き出す。

問十 「当てはまらないもの」を選ぶ問題である。大体大の問題では、このような本文とそぐわないものを選ばせる問題が頻出する。しかも設問文に目立つような注記もないので、うっかり当てはまるものを選ばないように注意する必要がある。さて、本文と照らし合わせてみると、アは第九段落から、球技をもとにし

て考察したのはイギリス人なので、不適合。イは「月が磁石の力で引き寄せられている」ということが明記されておらず微妙だが、第六段落に「地球がひとつの巨大な磁石である」「月がいつも地球に対して一定の面を向けている」という表現から解釈ができる。そこから第七段落の流れで同じ旨の記述がなされており、適合。ウは第八段落に同趣旨の記述があり、適合。エは解剖実験を重ね、という記述が本文にない。不適合。オは第三く九段落の具体例、および最終段落の説明と反対の内容で、不適合。ア・エ・オが正解である。

問十一 オの「侍医」だけが、やや見慣れないが、他は基礎的な漢字である。

【二】

問一 接続語を補充する問題は前後の関係を見て考えること。①aは前が大学を卒業し社会へ出た人の話題で、後が大学に残った人の話題である。その意味では転換と考えることもできるが、後の内容が「そうでもない」と否定の形で終わっているから逆接と考えることもできる。こういう場合は後回しでよい。①bはノーベル賞を受賞した学者のエピソードが後に続き、具体例と考えられるのでオの「たとえば」。①cも後の文が「であれば」と仮定の形になっているのでエの「もし」。①dは前に何の役に立っているか分からない研究をする研究者の立場で、切り捨てられれば反発する、との旨が述べられ、後では一般的に役に立たないと見られる研究も観点によっては意義が見出せるという内容が続いている。両方とも役に立たないと思われる研究の立場を擁護する形になっているので、添加・選択と把握してアの「あるいは」。①eは①dの続きになるが、転じて「長期的な視野」などの言葉が研究者の言い訳として使われる場合もあると、マイナスの内容が述べられているので逆接の力「しかし」を選ぶ。となると①aはイの「では」を選ぶことになる。

問二 ②aくcに関してはすべて「役に立つのですか」という質問の答えになる形である。「役に立つかどうか」がテーマで「役に立つ」が適当。②dは後に「許

容する」と続くことから本来は許してもらうような状況であると見る。ここに一つ目の「役に立たない」が入る。②eは経済や産業に役立つ研究が望まれるということが述べられたうえ、空欄直後に「要求は、より切実」とあるので「役に立つが入る」。②fも短い期間で目にみえるかたちで表さないといけないのでやはり「役に立つ」。②gは重視されていることなので「役に立つ」。それに対して②hは切り捨てられているので二つ目の「役に立たない」。②iも直後で切り捨てられる、とあるので三つ目の「役に立たない」が入る。②jは現在重視されている立場なので「役に立つ」が入る。以上②d・h・iの三つである。

問三 ③は空欄の後の内容を見ると、研究の意義も説明せず、自閉して趣味のような研究を続ける研究者について述べられている。それに関連して考えるとオの「象牙の塔」しかない。「世俗から超然とした境地・生活。」の意味だが、「現実から逃避するような学者の生活や、大学の研究室などの閉鎖社会。」も表す。閉鎖的な学問の世界を批判する時に使うことが多い言葉である。

問四 これも語句知識である。「無用の用」は「役に立たないと思われるものが、実際は大きな役割を果たしているということ。」の意でウが正解である。前後の「役に立たないと思われるものが、別の観点から見ると意義を見出せる」という文脈からも正解は導き出せるだろう。

問五 段落の初めに「このように「役に立つ」ということに焦点を当て」とあるので「役に立つ」という観点が含まれないイ・ウは除外。またオでは直前の立場と同じになってしまい、「もう一つは」という対比の關係にそぐわないのでこれも除外。そして次段落で「役に立つ」という評価を否定しているわけでもないのでエも除外。「役に立つ」研究を求める一方で、すぐに「役に立つ」わけではない研究でも価値を見出すべきである、という内容が最適である。

問六 「適切でないもの」を選ぶ設問である。十二分に気をつけてもらいたい。ただこの問題は容易である。エの「社会との関係を抜きにして」とあるのが、最終段落に「大学という場が、社会にとってどのような場であるべきなのか、あ

るいは、大学と社会とはどのような関係にあるべきなのか」と述べられた部分と明らかに異なる。

問七 今度は「合致するもの」である。本文第十三、十四段落で大学が「役に立つ／役に立たない」のか、つまり社会にとって有益であるかどうかは、大学の存在意義に関わる問題であり、大学の存在意義を問い、社会との関係を検討しなければならぬ、と述べられている。すなわち筆者は大学が「役に立つ」研究をするべきなのか「役に立たない」研究をするべきなのかは明記していないのである。その時点で、ア・イ・オは除外される。またエに関しては最終段落で「明確な基準を設けられないにしても」とあるので除外。ウは第五段落の内容に合致する。

問八 大体大では一字の訓読もよく出題される。万遍なく漢字知識を得ておくことが重要である。

【三】

問一 ①aは「高齢者白書」を読んで、そのデータを引用する形なので「とある」。
①bは程度が重なるような表現を補充する。「さらに」がよい。①cは直後に「ただの数じゃないか、これじゃ分かん」と続き、空欄を補充し、直前の内容をたいしたものと思わない、という内容にすればよい。「どう」を入れる。
①dは後に、「心配ない」と感じる層の割合が減少する、という内容が続く。要するに「心配だ」という層が増えていくのであるから、「ため」を入れて「ため息交じり」にする。①eは一文前の文頭が「なぜならば」で始まっていることに注目する。その文の終わりでは理由を示す形、「から、だから」になつていないので、この文の終わりに入れる。

問二 空欄を含む文の初めが「しかしまた」と逆接で始まっていることに注目する。前段落では筆者が日本経済の先行きについて悲観的な意見を述べている。その上で逆接があるのだから、空欄にはプラスの表現が入る。この時点でウを除外。また、他国など日本の外部の話題も本文では見られないので、エ・オも除外。

「いまだ」という語に合わないのでカも除外。また、前段落のような予想が立つということは、現状で経済が成長しているとは考えづらいのでアも除外。最終的にイの「破局を回避」を選ぶ。

問三 「メルクマール」はドイツ語で「指標、目印」という意味だが、一般的ではない。ここは文脈で考えるべきだろう。傍線部を含む一文の主語は「二〇二五年が」となっているので空欄には時点に関わる語句が入る。それを考えるとア「平均値」、イ「分析」、エ「減退局面」は除外できる。そして②とのかかわりになるが、二〇二五年までの日本の経済は成長を続けているわけではないので、ウの「最高点」も不適当になる。

問四 空欄まで所得、家計の話が続いている。「懐具合」で「所持金の額や金回りの状態。」を指す。

問五 空欄の直後をよく見てみよう。六〇歳時七三・〇、現在五五・四(%)と減少していることが分かる。その後働く目的について「健康維持」「生きがい」の割合が増えている。段落の最後には「生活費以外の目的が増えている」と述べられているので、減っている空欄の項目は「生活費」ということが分かる。

問六 空欄を含む一文は「ただし」で始まる。これは前述の内容に条件や例外を補足する役割がある。この場合一文前に団塊の世代の所得格差が拡大するという予測が述べられ、「ただし」の後に、「所得を維持できるライフスタイルができあがれば」という別の条件が付帯されているので、空欄には前文の逆の内容がある。なおかつ空欄直前にあるように、この考えはあくまで推測なのでアが最適となる。ウでは極端すぎる。

問七 二つとも基礎的な漢字である。確実に正解したい。

【四】 ウのみ両方とも謙譲語になっている。他は上が尊敬語、下が謙譲語

【五】 「れる・られる」の用法は「受身・尊敬・可能・自発」である。これは暗記しておきたい。イは上が受身で下が自発になっている。この場合の自発とは「自然」とそのようになってしまう」という意味である。アは受身、ウは尊敬、エは可能

才は自発である。

【六】 近年、大体大では冒頭文から題名・作者名を答えさせる問題が頻出している。有名なものは、もれなく覚えておきたい。